

講義コード	1114310001
講義名称	東洋史 01<通期>
科目英文名	Oriental History
開講責任部署	共通教育機構
代表ナンバリングコード	HIST1440
単位数	4.0
時間割	春学期: 月曜日 3 時限, 秋学期: 月曜日 3 時限
講義開講時期	通期

担当教員

氏名
演野 亮介

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト	宿題(演習問題、e-learning等)
---------------	--	----------------------

講義・演習概要	東アジア世界の中心であった中国王朝の変遷を軸に、モンゴル高原、中央アジア、極東地域、一部東南アジアの通史を概観する。なお、本授業では授業回ごとに予習の課題を課す。授業時以外での作業時間を要するので注意すること。
学習（到達）目標	東アジアの歴史を通史的に概観することによって関連する地域の歴史と文化の変遷の流れを理解し、それぞれが歴史を学ぶ意義について考えることを目標とする。

講義・演習計画

回	内容
第1回	《授業外ダインス》 ・授業の方法・予習・課題についての説明 ・全体の流れ ・「東洋史」とは
第2回	《歴史とはなにか》 歴史の定義・なぜ歴史を学ぶのか
第3回	《神話～夏殷時代》 中華文明の発祥・神話から歴史へ
第4回	《殷～西周時代》 殷周革命・西周による封建制・周の東遷
第5回	《春秋・戦国時代》 覇者の時代・戦国七雄と各国の競争
第6回	《秦代》 秦による天下統一事業
第7回	《楚漢争覇時代～前漢成立～武帝期》 秦の滅亡・楚漢戦争・前漢の成立・武帝の積極政策
第8回	《前漢末～後漢時代》 外戚の専権・王莽と後漢成立・後漢朝の対外関係・宦官の跳梁
第9回	《漢代の文化と周辺諸国》 漢代の文化・北方の騎馬民族・古朝鮮～四郡設置、西南地域における国家の発祥
第10回	《後漢末～西晋時代》 黄巾の乱・三国鼎立・三国統一・八王の乱
第11回	《五胡十六国時代（前期）》 「五胡」と「十六国」・鮮卑族の勃興・前秦と苻堅

第12回	《五胡十六国時代（後期）・六朝時代》 淝水の戦い・華北の再統一・南朝貴族制の成立
第13回	《南北朝～隋時代》 非漢民族による「漢地支配」・仏教道教の発展・隋朝の成立
第14回	《隋末～唐初時代》 煬帝の即位・隋末騒乱・唐の成立・隋唐の政治改革
第15回	《春期内容の確認と復習》
第16回	《秋期授業内容の概観》
第17回	《唐朝と国際関係》 隋唐と長安・シルクロードの成立・テュルク系民族・朝鮮半島と倭国・朝貢冊封と羈縻政策
第18回	《唐時代（中期）》 武周朝の成立・玄宗と黄金時代・安史の乱
第19回	《唐末～五代十国時代》 三国同盟・黄巢の乱と唐朝滅亡・「五代」と「十国」・燕雲十六州
第20回	《五代末～宋時代》 後周の世宗と宋朝・宋朝の中央集権体制・科挙の整備・王安石の改革
第21回	《契丹（遼）・西夏・女真（金初）》 沿海州と渤海国・契丹族の伸張・タングート族と西夏の成立・女真族の勃興・靖康の変・民族と文字
第22回	《金・南宋時代》 紹興の和議・海陵王と金朝の政治・南宋の専権宰相・都市と経済の発展・朱子学の成立・高麗の成立と中央アジアの動向
第23回	《モンゴル帝国時代》 チンギス＝ハーンの登場・ウルスと大ハーン・モンゴル軍の遠征・四大ウルスの成立・クビライの即位
第24回	《元朝～明朝時代》 モンゴル帝国の解体・紅巾の乱・明朝の成立・靖難の変と永楽帝・経済の発展と商人の活動・明朝の皇帝たち
第25回	《近世東アジアの国際関係と海》 市舶司の設置・海禁と前期倭寇・「海禁＝朝貢」システムの完成・銀の流入と後期倭寇・朝貢から五市へ・大航海時代と中国
第26回	《内陸アジアの国際関係》 モンゴル勢力の北走・ダヤン＝ハーンとアルタン＝ハーン・女真族の再興
第27回	《明末～清朝時代》 秀吉の朝鮮出兵・李自成の乱と明朝滅亡・ヌルハチと清朝入関・清朝黄金時代・条約の締結・「中国」の完成
第28回	《清末～辛亥革命》 帝国の斜陽と西洋諸国・アヘン戦争・続く内乱・「瓜分危機」・ロシアの伸張と朝鮮半島・近代化への道
第29回	《中華民国～現代》 国民党と共産党・ソ連と共産党・第二次大戦と日中戦争・大戦の終結・朝鮮戦争と東西冷戦・ソ連の解体と現在の東アジア
第30回	《授業全体のまとめ》

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	50%
その他	50%

成績評価の方法（コメント）	<p>《レポート》 春・秋学期末それぞれにレポートを課す。</p> <p>《その他》 授業回ごとに、事前に配布した授業資料に基づく授業前の予習課題を課す。</p> <p>※レポートおよび授業課題において、引用ルールを守らない盗用剽窃を行った者については厳正に対処する。</p>
---------------	--

参考文献	講談社『中国の歴史』シリーズ（全12巻）、2004年～2005年ほか、授業中に適宜紹介する。
------	--

事前および 事後学習の 指示	【授業外学習】 事前学習を目的とした課題の提出必須。授業終了後すぐに、M-Portにて次回の授業資料（PDF）を配布する。週末までに授業資料の内容を確認し、M-Portでそこに記された課題に解答・提出すること。授業時にはその解答の理解度に従って必要な部分を解説する。成績に直結するため、課題は毎回の提出を求める。
学習時間	事前学習時間：60時間 事後学習時間：60時間

講義コード	1123610000
講義名称	科学技術史 < 通期 >
科目英文名	History of Science and Technology
開講責任部署	国際教養学部 英語・国際文化学科
代表ナンバリングコード	HIST2400
単位数	4.0
時間割	春学期: 水曜日 2 時限, 秋学期: 水曜日 2 時限
講義開講時期	通期

担当教員

氏名
本間 栄男

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート	小レポート/小テスト
---------------	---	------------

講義・演習概要	西洋科学技術史の流れを概観する。その際、西洋科学技術の出発点としての古代ギリシャ、近代科学の考え方が生まれたルネサンス近代初頭、現代の科学の直接の起源である 19 世紀、及び現代科学の特徴を際立たせる 20 世紀前半の科学の流れに沿って考察する。
学習（到達）目標	世界の市民として必要な教養として科学の発展の大筋を理解し、現代文明の基盤を理解する素養を持つことが基本的な目標である。そのためには、時代ごとの科学の特徴と、著名な科学者の事績を把握しておくことが必要である。

講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	科学という言葉の歴史
第3回	古代（1）ピュタゴラス
第4回	古代（2）アリストテレス
第5回	古代（3）古代ギリシャの医術
第6回	古代（4）古代アレクサンドリアの科学技術
第7回	中世イスラム圏とヨーロッパの科学
第8回	近世（1）ルネサンスの三大発明（1）羅針盤と印刷
第9回	近世（2）ルネサンスの三大発明（2）火薬
第10回	近世（3）絵画芸術
第11回	近世（4）天文学の革命（1）コペルニクス
第12回	近世（5）天文学の革命（2）ティコとケプラー
第13回	17世紀（1）ガリレオ（1）機械学と運動学
第14回	17世紀（2）ガリレオ（2）望遠鏡と宗教裁判
第15回	17世紀（3）科学革命論
第16回	17世紀（4）ニュートン
第17回	18世紀（1）啓蒙思想と博物学
第18回	18世紀（2）江戸時代の日本の科学技術
第19回	19世紀（1）19世紀の医学
第20回	19世紀（2）医療技術

第21回	19世紀（3）ファラデー
第22回	19世紀（4）ダーウィン（1）博物学者ダーウィン
第23回	19世紀（5）ダーウィン（2）進化論
第24回	19世紀（6）ノーベルとノーベル賞
第25回	20世紀（1）アインシュタイン（1）特殊相対性理論
第26回	20世紀（2）アインシュタイン（2）一般相対性理論
第27回	20世紀（3）寺田寅彦
第28回	20世紀（4）マリー・キュリー
第29回	まとめ
第30回	テストと解説

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	
その他	

成績評価の方法（コメント）	合否判定は、複数回行われる小テストで決定される。 状況に応じてテストの形態は変化する可能性があるので確認すること。
---------------	--

参考文献	全体を通じての参考図書は、橋本毅彦『図説科学史入門』（ちくま新書 2016）。 各回にその回の話題についての参考図書を提示する。
事前および事後学習の指示	科学的な話題に敏感であるように、ネットニュースや新聞での科学記事に注目すること。 講義に使用したパワーポイント画像は講義後にオンラインで提示されるので、復習に利用すること。
学習時間	事前学習時間：60時間 事後学習時間：60時間

講義コード	1051510001
講義名称	外国史 01<通期>
科目英文名	History of Foreign Countries
開講責任部署	共通教育機構（資格課程）
代表ナンバリングコード	HIST1020
単位数	4.0
時間割	春学期: 木曜日 1 時限, 秋学期: 木曜日 1 時限
講義開講時期	通期

担当教員

氏名
鈴木 康文

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト
---------------	--

講義・演習概要	古代から第二次世界大戦後までの欧米各国の歴史を概観します。特に国内の政治や経済の歴史、また各国の国際関係の歴史です。できるだけ史料（邦訳）を紹介し、読み解いていきます。
学習（到達）目標	①古代から第二次世界大戦後までの欧米各国における国内の歴史および国際関係の歴史を学び理解する。 ②史料を読み解き、その歴史的意味を理解する。

講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンスおよび古代ギリシア①ーアテナイ・スパルタ
第2回	古代ギリシア②ーマケドニア
第3回	古代ローマ①ー王政・共和政
第4回	古代ローマ②ー元首政・帝政
第5回	フランク王国、ビザンツ帝国
第6回	十字軍、商業の発展、中世都市の成立
第7回	中世における英仏独伊の動向
第8回	大航海時代
第9回	ルネサンス、宗教改革
第10回	近世ヨーロッパ諸国の抗争、主権国家体制
第11回	イギリス革命
第12回	プロイセンとオーストリア
第13回	産業革命
第14回	試験と解説（1回目）
第15回	春学期のまとめ
第16回	アメリカ独立戦争
第17回	フランス革命
第18回	ナポレオンの登場
第19回	ウィーン体制
第20回	19世紀後半のヨーロッパ①ー英仏伊の動向

第21回	19世紀後半のヨーロッパ②—独露の動向
第22回	アメリカ南北戦争
第23回	帝国主義①—英仏独の動向
第24回	帝国主義②—米露の動向
第25回	第1次世界大戦
第26回	ヴェルサイユ体制
第27回	世界恐慌、ファシズム
第28回	第2次世界大戦
第29回	試験と解説（2回目）
第30回	秋学期のまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	0%
その他	0%

成績評価の方法（コメント）	<p>論述試験（2回）と小テストの点数により成績を評価します。</p> <p>※論述試験と小テストの詳細（割合、実施方法など）を含め、成績評価については第1回ガイダンスで説明します。必ず出席してください。</p>
---------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	木村靖二ほか	もういちど読む 山川世界史 PLUS ヨーロッパ・アメリカ編	大学オンライン販売	978-4634640931	山川出版社	

事前および事後学習の指示	<p>事前学習：教科書・授業資料をよく読んでおいてください。</p> <p>事後学習：教科書・授業資料を使って復習してください。</p>
学習時間	事前学習時間：60時間 事後学習時間：60時間

講義コード	1051410002
講義名称	日本史 02<通期>
科目英文名	History of Japan
開講責任部署	共通教育機構（資格課程）
代表ナンバリングコード	HIST1010
単位数	4.0
時間割	春学期: 金曜日 2 時限, 秋学期: 金曜日 2 時限
講義開講時期	通期

担当教員

氏名
吉村 智博

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	<p>※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。</p> <p>その他</p> <p>なし</p>
---------------	--

講義・演習概要	日本史を履修するにあたり、歴史学および人文地理学の最新の研究成果を反映させた内容とする。春期は、日本史の視点や認識を概観する研究入門からはじめ、文献資料を中心とした前近代史および近現代史について講義する。秋期は、図像資料を中心に前近代を中心とする地図に関する内容とする。その際、原史料(文字と地図)をできるだけ参照しつつ進めていく。春期・秋期ともにおこなう授業内レポートでは、受講生自身の独自の意見・見解・論理などを問う内容となる。なお、レポートをもって「試験」に替えることとする。
学習（到達）目標	義務教育段階あるいは高等学校段階までで基本的に履修した歴史的事項はもちろんのこと、個別テーマについて掘り下げて考察することで、日本史における多様な側面を深く理解することを目標とする。ゆえに、受講生自身の関心や考究の態度など学習の到達度がわかるような授業内レポートを実施する。また、本講義を受講することによって、最新の日本史学界の動向やその研究状況、さらには、日本史のみならず日本地理に関する基本的な事柄を履修することができる。それは、すなわち、歴史総合をベースにした日本史探求を実践することにつながる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	日本史入門－日本史学の現在 通期の授業計画およびガイダンスを含め、日本史研究の現段階について概説する。
第2回	日本史の見方①－民衆史・社会史 1970年代以降に注目されるようになった民衆史と1980年代にヨーロッパ社会論の影響を受けて導入された社会史について
第3回	日本史の見方②－国民国家論・グローバルヒストリー 1990年代に社会主義国の崩壊以降に問題となった国民国家（コロニアリズムを必然的に内包する帝国主義の歴史と現段階）および近年のグローバルヒストリーの基本的考え方について
第4回	古代社会と律令制 記紀神話に代表される古代の歴史観と社会観、さらに律令国家の社会構成および身分制度について
第5回	中世社会と権門体制 荘園公領制を基本として展開される中世の政治的・経済的社会について
第6回	近世社会と身分制 近世的特徴である幕領・大名領国・旗本知行を基本とする身分制社会(都市・農村)における生活の諸相について
第7回	明治維新と地方自治 日本近代化の転換点となった明治維新期の外交と政治、および国内自治の内実について
第8回	自由民権と帝国憲法 民選議員設立建白に端を発する国会開設、憲法制定運動の内実と帝国憲法について
第9回	日清戦争と日露戦争 近代化路線を邁進する日本が東アジアにおいておこなった戦争とその意味について
第10回	第1次世界大戦と民力涵養 ヨーロッパにおける戦争にアジアを舞台に参戦した日本の意図とその新たな分析視角について

第11回	米騒動と社会政策 富山に端を発した米騒動の通説的理解の見直しと、その後の都市型社会政策について
第12回	大正デモクラシーと民本主義 「大正」期に隆盛したデモクラシー的状況とその思潮・文化の内容について
第13回	アジア・太平洋戦争 昭和恐慌後におこった15年におよぶ対中国戦争(アジア)と、対米・英・蘭戦争(太平洋)の意味と現在性について
第14回	春期のまとめとレポートについて 春期13回の内容を再度確認し、論点を整理するとともに、春期のレポートについての注意事項
第15回	春期の到達度確認のためのレポート提出 春期の学習到達度を確保するため、期限を設けてレポートの提出を課す(注意事項は第14回に明示)
第16回	古代社会と荘園絵図 班田制から荘園公領制に移行していく古代・中世の社会の諸相と現存する荘園絵図について(あわせて古地図・絵図の歴史的な位置づけの外観)
第17回	中世社会と行基図 一般的に「行基図」と称されている絵図の特徴と東アジアにおける日本の地理的位置、および中世の世界観について
第18回	戦国大名と洛中洛外図 京の街並みを鳥瞰した洛中洛外図屏風が描き出す日常の空間と人々の生活、さらに武家文化と公家文化との相違について
第19回	外国との接触と世界図 大航海時代に「到達・発見」されたことによって、高い関心を寄せた多くの地理学者・地図作成者の手になる世界図と日本図について
第20回	測量への挑戦と伊能図 歩測における日本地図を完成させた伊能忠敬を取り巻く人間関係と測量方法およびシーボルト事件について
第21回	徳川の権威と国絵図 将軍家が日本全国の諸大名や旗本などの領国・知行地などを一括支配するために命じた国絵図の編纂意図について
第22回	松前・薩摩と蝦夷図・琉球図 松前藩を通じて交易のありながら長くその存在を明記されなかった「蝦夷」、尚氏による王朝として栄えた「琉球」を描いた地図について
第23回	共同体生活と村絵図 近世身分制社会を支える経済生活の基礎となっていた在地共同体(農村)の水利・入会などを記した村絵図について
第24回	出版文化と大坂町絵図 近世の三大都市のひとつある大坂市中を描いて出版された大坂町絵図の特徴と変遷について
第25回	伝統都市と京都町絵図 洛中洛外図以来、衆目をさらっていた京の街並みを描いて出版された京都町絵図の特徴と変遷について
第26回	首都建設と江戸町絵図 家康の入部以来本格化する江戸の街づくりに関する絵図の変遷とその特徴について
第27回	明治維新と基本図 内務省地理局と陸軍参謀本部との2系列で作成されていく基本図の法制史的な位置づけとその特徴について
第28回	遊覧図と外邦図 デモクラシーの思潮とともに整備されていく諸都市を描いた吉田初三郎、美濃部政治郎に代表される遊覧図について、および植民地支配を軸に帝国の版図を拡大していくなかで作成された外邦図について
第29回	秋期のまとめとレポートについて 秋期13回の内容を再度確認し、論点を整理するとともに、次回の授業内レポートについての注意事項
第30回	秋期および通期の到達度確認のためのレポート提出 本講義の秋学期および通期にわたる学習到達度を最終確認するため、授業内でレポートを実施(注意事項は第29回に明示)

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	80%
その他	20%

成績評価の方法（コメント）	<p>基本的には教室での講義であるため、毎回作成するプレゼンテーション（ppt音声入り）あるいはレジュメ(いずれにしても基本的にM-Portよりダウンロード)をもとに授業を進める。春期および秋期の最後に論述中心のレポート(試験に相当)を課すことになる。また、春期・秋期とも何回か「コミュニケーションカード」のようなものを記入してもらう。</p> <p>なお、レポートを提出しない、レポートの内容が到達点に達していない、コミュニケーションカードの提出がない、など場合には単位を認定することは</p>
---------------	--

難しい。

参考文献	春期および秋期のはじめに詳細なものを提示するが、さしあたり、全体にかかわる以下のものを提示する。 ①永原慶二『20世紀日本の歴史学』吉川弘文館、2003 ②桂島宣弘『思想史で読む史学概論』文理閣、2019 ③大日方純夫ほか編『日本近現代史を読む・増補改訂版』新日本出版社、2019 ④佐々木潤之介ほか編『概論・日本歴史』吉川弘文館、2000 ⑤金田章裕・上杉和央『日本地図史』吉川弘文館、2011
事前および事後学習の指示	事前・事後とも30分程度
学習時間	事前学習時間：60時間 事後学習時間：60時間

講義コード	1054160000
講義名称	哲学 <通期>
科目英文名	Philosophy
開講責任部署	共通教育機構（資格課程）
代表ナンバリングコード	PHIL1010
単位数	4.0
時間割	春学期: 金曜日 3 時限, 秋学期: 金曜日 3 時限
講義開講時期	通期

担当教員

氏名
木下 昌巳

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト
---------------	--

講義・演習概要	<p>哲学とは、世界と人間について、常識を突き抜けその根源的なあり方を認識しようとする学問である。この講義では、哲学を学問としてはじめて学ぶ人たちを対象として、哲学がどのようなことを考える学問であるのかということをおきらかにして、そのうえで西洋の主要な哲学者の思想について解説をおこなう。春学期は「哲学」という学問的営みが成立した古代ギリシアの哲学者たちの思想を取り上げ、「哲学」という学問がどのように成立し、発展していったのかを概観することによって、哲学という学問の問題意識の理解を図ることを主眼に置いて講義をおこなう。秋学期は哲学の黄金期とも言えるヨーロッパの近世・近代の哲学思想を中心として、17世紀から20世紀に至るまでの主要な哲学者の思想を解説する。</p> <p>この授業では、講義のテーマとして、哲学のなかでも「存在論（世界は究極的にいかなる存在から成り立っているのかという問題）」と「認識論（人間は何をどこまで知ることができるのかという問題）」を中心的に解説する。哲学が取り扱うまた別の主要問題である「ひとはいかに生きるべきか？」という問題（道徳哲学）に関心のある人は、この授業とは別に開講される「倫理学」の受講を勧める。この「哲学」と「倫理学」と両方を選択することも可能である。</p>
学習（到達）目標	<p>哲学を学ぶということは、過去の哲学者の名前や難解な専門用語を暗記することではない。大切なことは、哲学が取り組むさまざまな問題の内容を正確に把握したうえで、その問題に対して「自分はその問題に対してどう考えるのか」ということを論理的に説明ができるようになることである。しかし、その考えが独りよがりなものにならないようにするためには、古代から現代に至るまでの過去の哲学者たちがどのような問題に取り組み、その問題に対してどのような答えを出してきたのかを正確に理解することが必要である。そして、そのうえで各人が哲学の問題の内容とそれに対する自分自身の考えを自分の言葉で他者に説明できるようにすることを旨とする。</p>

講義・演習計画

回	内容
第1回	<p>はじめて哲学を学ぶ人に向けての導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「哲学」とはいかなる学問か ・哲学が扱う三つの領域 ・西洋哲学の流れとその時代区分
第2回	<p>ソクラテス以前の哲学者たち①ーミレトス学派の思想 万物の始源（アルケー）の探求</p>
第3回	<p>ソクラテス以前の哲学者たち②ーエレア学派の思想 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パラドクスとは何か？ ・アキレウスは亀のパラドクス
第4回	<p>ソクラテス以前の哲学者たち③ーエレア学派の思想 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・矢のパラドクス ・実在と現象の区別
第5回	<p>ソクラテスの生き方① 「よく生きる」ための哲学</p>
第6回	<p>ソクラテスの生き方② ソクラテスの問答法ー「勇気とは何か？」</p>
第7回	<p>プラトン① プラトンの生涯と著作</p>

第8回	プラトン② プラトンの「イデア論」という思想
第9回	プラトン③ プラトンの主著『国家』と洞窟の比喻
第10回	プラトン④ 哲人王の思想とプラトンの民主制批判
第11回	プラトン⑤ 哲学とエロスー「プラトニック・ラブ」とは何か？
第12回	アリストテレス① 「万学の祖アリストテレス」
第13回	アリストテレス② プラトンのイデア論批判と内在形相という考え方
第14回	アリストテレス③ アリストテレスの目的論的世界観
第15回	アリストテレス④ アリストテレスの倫理思想ー「中庸」とは何か？
第16回	西洋近代哲学の概観 16世紀から19世紀後半における哲学思想の展開
第17回	大陸合理論とイギリス経験論 17～18世紀の西欧哲学の問題意識
第18回	デカルト① デカルトの「方法的懐疑」
第19回	デカルト② 「私は考える、ゆえに、私は存在する」
第20回	パスカルの思想 「パスカルの賭け」ー哲学と宗教の違い
第21回	イギリス経験論① 感覚的認識の意義と自然科学の擁護
第22回	イギリス経験論② 「タブラ・ラサ」ーロックによる生得観念の否定
第23回	イギリス経験論③ ヒュームによる観念の分類
第24回	イギリス経験論④ ヒュームによる因果律の否定
第25回	カント① カントの批判哲学の意図
第26回	カント② 直観の形式と内容
第27回	カント③ 判断の形式と内容
第28回	カント④ カントの「コペルニクスの転回」
第29回	ニーチェ① ニーチェの問題意識と道徳の系譜学
第30回	ニーチェ② 貴族道徳と奴隸道徳

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	100%

その他	0%
-----	----

成績評価の方法（コメント）	<p>春学期配点50点、秋学期配点50点として通年で100点満点で成績評価をおこなう。 春学期・秋学期配点50点の成績評価は、両学期とも</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内で告知する小レポート5回（5点×5 計25点） ・学期末レポート（25点） <p>とする。</p>
---------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	伊藤邦武	物語 哲学の歴史 - 自分と世界を考えるために	大学オンライン販売	978-4121021878	中央公論新社	

参考文献	<p>内山勝利他『哲学の歴史』（全13巻）（中央公論新社、2007-2008）ISBN: 978-4124801415</p> <p>現在、日本で出版されているもっとも詳しい哲学史である。内容は細かいが、講義で取り上げた哲学者とその思想、さらに参考文献についてさまざまな知識や情報を得ることができる。</p> <p>さらに桃山学院大学の図書館は哲学関係の蔵書が充実している。授業で解説した本だけではなく、書架の前に立ち自分の目から見て興味を持ってそうな本を手にとって開き、おもしろそうと思ったら、自分には難しそうだと思っても借りて読んでみてほしい。哲学の書物は一度読んだだけで理解できるものではない。そのことを繰り返しているうちに、自分はどんなことに興味があるのか、自分は何をどこまで理解できているのかということがわかるようになるだろう。</p>
事前および事後学習の指示	<p>シラバスで提示されたテーマに対応するテキストの箇所をできるだけ事前に読んでおくこと。独力でテキストを読んでその内容を理解することは難しいかもしれない。しかし、講義後に、再度読み直すことによって「そういうことが書いてあったのか」と納得することができるだろう。さらに授業で取り上げた思想家の解説書や関連書物を授業内で紹介していくので、授業後や休暇中にそれらの書物をすすんで読んでくれることを期待する。で提示するするスライドのファイルは、M-Portの授業資料欄に順次アップロードしていくので、各自ダウンロードして自己学習に利用してほしい。</p>
学習時間	<p>事前学習時間：60時間 事後学習時間：60時間</p>

講義コード	1051710000
講義名称	倫理学 <通期>
科目英文名	Ethics
開講責任部署	共通教育機構（資格課程）
代表ナンバリングコード	PHIL1020
単位数	4.0
時間割	春学期: 金曜日 4 時限, 秋学期: 金曜日 4 時限
講義開講時期	通期

担当教員

氏名
木下 昌巳

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト
---------------	--

講義・演習概要	われわれは日々生きていくなかで、誰もがさまざまな事柄に関して「これは善いことだ」、「それは悪いことだ」というような価値的な判断を積み重ねながら生きている。しかし、その「善い」や「悪い」という判断はそもそもどういうことを意味しているのだろうか。倫理学は、「善・悪」とはそもそもどういうことなのか、「善・悪」の判断にはどのような根拠があるのか、さらにそれと深くかかわる「幸福」や「正義」とはどのようなことなのかという問題を哲学的に考察して、その本性をあきらかにしようとする学問である。この授業では、日常生活のなかで直面するさまざまな具体的問題を例として取り上げながら、①過去の思想家たちは「善・悪」についてどのように考えてきたのか、②それを踏まえて、現代に生きる私たちは「善・悪」についてどのように考えればよいのか、ということ倫理学を初めて学ぶ人に対してわかりやすく解説する。
学習（到達）目標	近年、安楽死の是非、男女差別、人間とAIとの関わりというような問題が盛んに論じられ、さまざまな主張がなされている。しかし、これらの問題は、最終的には「われわれは何を善として何を悪とするか」、「われわれは何を目指しているのか」という倫理的問題に行き着く。この授業では、以上のような具体的なトピックを取り上げながら、これらの問題を分析して、その根本にある倫理的問題をあきらかにしていく。さらに、日常生活から新しいテクノロジーの分野にいたるまで、われわれがこれから直面するであろうさまざまな倫理的問題について、社会の通念を鵜呑みにするのではなく、何が問題になっているのかということ自らの力で整理・分析したうえで、各人が主体的で自立的な判断をする態度と見識を養う。

講義・演習計画

回	内容
第1回	倫理学の基礎① 1, 倫理学とはいかなる学問か 2, 倫理学の下位分類
第2回	倫理学の基礎② 1, 記述と規範 2, 倫理学に正解はないのか 3, 直観に基づく倫理と理由に基づく倫理
第3回	死刑制度の存廃論① 賛成論の論拠の検討
第4回	死刑制度の存廃論② 反対論の論拠の検討
第5回	嘘をつくこと・約束を守ることの倫理① 倫理学の原理としての「義務論」という考え方
第6回	嘘をつくこと・約束を守ることの倫理② 倫理学の原理としての「功利主義」という考え方
第7回	自殺と安楽死① 自殺はなぜ悪いことなのか
第8回	自殺と安楽死② 自殺に関するヒュームとカントの見解の検討

第9回	自殺と安楽死③ 安楽死に関する倫理的検討
第10回	自殺と安楽死④ 東海大安楽死事件と安楽死の四要件
第11回	他者危害原則と喫煙の自由① 1, 道徳原理としての他者危害原則 2, パターナリズム
第12回	他者危害原則と喫煙の自由② 喫煙は個人の自由であるため公共空間では規制すべきでないという主張の検討
第13回	他者危害原則と喫煙の自由③ 1, 公共空間では規制し、私的空間でしか喫煙はできないという主張の検討 2, 私的空間でも公共空間でも喫煙は認められるべきという主張という主張の検討
第14回	倫理思想としてのフェミニズム① フェミニズムという思想の歴史の変遷
第15回	倫理的思想としてのフェミニズム② 道徳的判断に男女の違いは存在するか
第16回	ベジタリアニズム① 1, 動物の愛護と肉食 2, ベジタリアニズムとヴィーガニズム
第17回	ベジタリアニズム② 1, 肉食を正当化する論理 2, ベジタリアニズムに対するいくつかの反論と応答
第18回	善いことをする義務① 1, 倫理学における「善行」とはいかなる行為か 2, なぜ人は「利己主義者」であってはならないのか
第19回	善いことをする義務② 道徳的評価おいての行為の結果の位置づけ
第20回	善いことをする義務③ ・「善行」とは何か ・カントによる「善行」の位置づけ
第21回	善いことをする義務④ シンガーの援助義務論一人はどこまで他者を助ける義務があるのか
第22回	善いことをする動機① 道徳的評価における動機の位置づけ
第23回	善いことをする動機② 利他主義に対する懐疑—純粋な「利他主義」は存在するか
第24回	善いことをする動機③ 心理的利己主義と倫理的利己主義
第25回	善いことをする動機④ 道徳における動機の重要性
第26回	災害時の倫理① 1, 「津波てんでんこ」とは何か 2, 「恒美てんでんこ」に対する2つの批判
第27回	災害時の倫理② 1, 「津波てんでんこ」は利己的な教えか 2, 「津波てんでんこ」と心理的困難さ
第28回	法と道徳 1, 現代日本の法と道徳に関する理解 2, 法と道徳の教科書的区別とその問題点
第29回	文化相対主義の挑戦① ・「文化相対主義」という考え方 ・普遍的な道徳は存在するのか
第30回	文化相対主義の挑戦② ・文化相対主義の問題点 ・「望ましがらざる文化的習慣」に対してどのように対応すべきか

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	100%
その他	0%

成績評価の方法（コメント）	<p>春学期分配点50点、秋学期分配点50点として通年で100点満点で成績評価をおこなう。 春学期・秋学期配点50点の成績評価は、両学期とも</p> <ul style="list-style-type: none">・授業内に告知して提出する小レポート5回（5点×5 計25点）・学期末レポート（25点） <p>によっておこなう。</p>
---------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	児玉聡	実践・倫理学	大学オンライン販売	978-4326154630	勁草書房	

参考文献	<p>倫理的問題に対する判断は社会と時代の変化に伴って変化するものであり、とくに時事的な問題については必ず賛否両論が並立する。授業で取り上げた具体的な事例、またその他の時事的な倫理的な諸問題については、インターネットで最新の情報や意見を収集することが不可欠である。検索やリンクをたどっていけば、さまざまな主張や論争がいたるところで展開されていること見て取れるだろう。大切なことは、ある特定の主張をを鵜呑みにするのではなく、対立する主張にも耳を傾けて、双方の主張の根拠を理解したうえで、自分はどのような立場を採るかということをつねに考える習慣を身に着けることである。倫理学を学ぶことの意義はここにある。</p>
事前および事後学習の指示	<p>授業前に、テキストの該当箇所を一読しておくこと。テキストを独力で読みこなすことは初めて倫理学を学ぶ学生には困難かもしれない。しかし、講義を受けた後で読み返してみると「なるほど、そういうことが書いてあるのか」と腑に落ちるはずである。授業後、テキストを繰り返し熟読すること。 授業で使用したスライドファイルは授業後にM-Portにアップロードする。各自ダウンロードして復習に利用してほしい。</p>
学習時間	<p>事前学習時間：60時間 事後学習時間：60時間</p>